

# 令和2年度 病虫害発生予察特殊報第1号

令和2年10月15日

山 梨 県

病虫害名：ツマジロクサヨトウ *Spodoptera frugiperda* (J.E.Smith)

作物名：スイートコーン

## 1 発生の経過

- (1) ツマジロクサヨトウ侵入警戒調査のため、県内に設置したフェロモントラップ1地点において、令和2年10月5日に雄成虫とみられる個体が捕獲された(図1)。
- (2) また、令和2年10月7日、中北地域で栽培されているスイートコーンほ場において、本種と疑われる幼虫および被害(図2)が確認された。
- (3) 農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼した結果、10月5日及び7日の個体ともツマジロクサヨトウと同定された。

## 2 国内での確認状況

本種は令和元年7月に鹿児島県の飼料用トウモロコシにおいて国内で初めて確認された後、全国の45道府県で確認され、令和2年10月15日までに特殊報が発表されている。

## 3 形態的特徴及び生態

- (1) 終齢幼虫は体長40mmで、頭部複眼が淡褐色の網目模様となっており、淡色の逆Y字紋がある。また、尾部の斑点が褐色～黒色で大きく目立つのが特徴である(図3)。卵は、寄主作物に塊状に産み付けられ、雌の体毛で覆われる。
- (2) 本種は南北アメリカの熱帯、亜熱帯地域原産。熱帯では年4～6世代と発生回数が多いが、温帯では1～2世代となる。国内の屋外では一部の地域を除き越冬することはできないとされている。
- (3) 幼虫が植物の茎、葉、花、果実を食害する。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害するが、発育が進むと分散して加害する。新葉の葉鞘部に多く寄生し、多量の糞が認められる。

## 4 防除対策

- (1) 国内では飼料用とうもろこし、ソルガム、スイートコーンで多く見つかっているが、本県においてはこれらの農作物の今年の収穫はほぼ終了していることから、今年の今後の被害はないと考えられる。
- (2) 本県で越冬することはできないと考えられるが、来年以降本種と疑われる幼虫を発見した場合は最寄りの農務事務所(地域普及センター)または山梨県病虫害防除所まで連絡する。
- (3) 県の指導の下、本種を防除する際には、植物防疫法第29条第1項の規定に基づく措置として、国が指定する薬剤を使用する。詳細は農林水産省ホームページを参照する。

[https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k\\_kokunai/attach/pdf/tumajiro-130.pdf](https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/attach/pdf/tumajiro-130.pdf)



図1 フェロモントラップで捕獲された雄成虫



図2 幼虫による食害痕



図3 ツマジロクサヨトウ幼虫（体長約 40mm）

左：外観、中央：頭部正面の特徴、右：腹部後方の特徴

※農林水産省「ツマジロクサヨトウ」防除マニュアル本編（第1版）より抜粋  
[https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k\\_kokunai/attach/pdf/tumajiro.html](https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/attach/pdf/tumajiro.html)